日本地域学会ニューズレター

令和5年 no.1

令和5年2月	28	Ħ
--------	----	---

目	次
口	1/

Ι.	会長挨拶		2
${\rm II}$.	役員人事等		3
Ⅲ.	第60回日本地域学会年次大会(令和5年10月8~9日)のご案内 論文報告の募集について	•••	7
IV.	総会報告 麗澤大学(オンライン)で開催された日本地域学会総会についての報告	•••	8
V.	理事会報告 令和 4 年度第 4·8 回および令和 5・6(2023・2024)年期 新理事会		9
VI.	委員会報告 1. 優秀発表賞選考委員会(受賞者の紹介) 2. 機関誌編集委員会		12
VII.	会費納入のお願い 令和 5 年度会費請求額,会費早期納入の特典,Web 会員について		14
VIII.	国際地域学会関連会議のお知らせ		15
IX.	学会賞候補者推薦の募集		16
Χ.	会員の移動		17
	『地域学研究』バックナンバー申込書 正会員入会申込書		

注意:令和5年度会費請求書が同封されています。

(納入期限 令和5年3月末日)

I. 会長挨拶

日本地域学会会長 松本昭夫

私,松本は,昨年12月18日に開催されました2023・2024年期の新理事会におきまして,新理事の皆様のご推挙により,日本地域学会長の職を拝命致しました。今後は,副会長の浅見泰司先生,木南莉莉先生,今期より新たに就任なさいました鐘ヶ江秀彦先生,新理事・監事の重責を担っていただく諸先生方にご協力・ご助言を賜りながら,60余年の歴史を誇る日本地域学会の一層の発展に尽力して参ります。さらに,総務理事常任理事には事務局長である水野谷剛先生,理事・事務局次長には内田晋先生,財務担当常任理事には櫻井一宏先生,庶務担当常任理事には鈴木聡士先生にご就任いただき,堅固な学会運営を目指していく所存です。

Walter Isard 教授(University of Pennsylvania) により創設された地域科学は,経済学,地理学, 社会学,人口学,生命科学,環境学,都市工学 等の領域を含むまさに学際的な学問であり,従 来は看過されがちであった「空間」を新たに分 析対象とすることにより発展を遂げてきまし た。こうした地域科学の重要性から地域学会 (RSA)は 1954年, 創設に至り, その後は国際地 域学会(RSAI)へと発展し、現在は 4 つ地域 (Super-regions)に環太平洋地域学会(PRSCO), 欧州地域学会(ERSA), 北米地域学会(NARSC) 及びラテンアメリカ地域学会(LARCA, 近年 Cuba が加わり、LACRAS とも称されています) を下部機構として設置しています。皆様もご承 知のとおり、日本地域学会は PRSCO の設立時 からその主要メンバーとして環太平洋におけ る地域科学の発展に指導的な役割を果たして きました。

昨年は、鐘ヶ江先生が組織委員長として PRSCO をオーガナイズなさいました。当初 PRSCO は 2021 年に開催される予定でしたが、 COVID-19 の蔓延により、1 年の延期、しかも

on-line 形式を余儀なくされ,漸く 2022 年 8 月 京都での PRSCO conference 2022 の開催に至りました。会議は、Toward knowledge society in historical city with regional science のテーマの下、多数の国々からご参加いただき、活発な議論が交わされ、参加者の皆様は言うに及ばず、学会にも大きく寄与できたと確信しております。国内に目を向ければ、第 59 回日本地域学会年次大会が麗澤大学で開催されました。Early-bird sessions、英語 sessions、地域問題、経済開発、空間経済学の諸問題をはじめとした様々なセッションも盛況に終えました。

日本地域学会は、RSA の設立から 8 年後の 1962 年, Isard 教授の要請に応える形で RSA の Japan Section として設立されました。地域 科学が漸く学問として浸透し始めた状況で,初 代会長(1963-1972)の今野源八郎先生,2代目会 長(1973-1982)の大石康彦先生, 3 代目会長 (1983-1992)の河野博忠先生はまさに三位一体 となり国内外における日本地域学会の基盤作 りに努められ、その成長・発展への貢献ははか り知れないものです。中でも、学会の黎明期か ら離陸期(1962年-1983年)にかけて国際地域学 会内における日本地域学会のプレゼンスを欧 州地域や北米地域の先進学会と比肩するほど 高めたことは特筆すべきでしょう。1980年中 庸以降の河野会長と事務局長の氷鉋揚四郎先 生による河野・氷鉋体制では、国内学会の拡充 や海外からの一流研究者の招請, 学会員の国際 大会への参加奨励等のたゆまぬ努力を重ね,日 本地域学会は量的・質的ともに急速に成長しま した。

現在の我々は、こうした先達の多大な「遺産」の恩恵を十分に享受しています。研究成果は、国内年次大会、海外でも PRSCO、RSAI world congress 等、十分な発表の場が準備されています。最重要課題である研究成果の公表に関しては、まず国内では、学会の専門雑誌である『地域学研究』があります。機関誌編集委員会では厳密かつ公正な査読体制が定着化しており、既

に 52 巻を刊行,総収録論文数は 1700 篇を超 えています。この盤石な体制を長年にわたり支 えられたのが編集委員長を務められた多和田 眞先生ですが, 今年期からは浅見先生がこの任 にあたられます。海外向けでは、2017年に創刊 された英文の機関誌 Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)があります。こちら は研究の質重視の編集方針をとっており、掲載 論文は高評価を得ています。実際, Cite Score (Scopus データーに基づいた論文の評価指標) は 1.7、過去 5 年の掲載論文数と被引用数に基 づく h5-index も 9 を獲得していますが、IFの 獲得と A-journal の評価を目前に控え、さらな る高みを目指しています。書籍に目を向ければ, Springer Japan より発行されている New Frontiers in regional Science: Asian Perspective も順調に成果を重ねています。現 在 vol. 65 が 2023 年 3 月に販売開始予定で、 インターネットでの予約受け付けも開始して います。

このように日本地域学会は、会員諸賢による 国内外の専門雑誌への掲載論文数の多さ、その 質の高さを鑑みれば十分な成熟度を成就して いると考えられます。しかし、次なるステージ を目指すことは必須であり、国際的な発信強化 を図るには、国内大会であっても海外に門戸を 開き、海外からの参加者の招聘、英語 session の拡充等、一つ一つ実績を重ねることも大切で しょう。10年単位で眺めれば、PRSCOを含む 国際大会への参加者も増加しているものの、さ らなる一歩として、World congress における special session のオーガニゼーションや plenary talk 等による情報発信も期待されると ころです。

国際的な観点から地域科学の新たな地平を 切り開くことが、日本地域学会のノブレス・オ ブリージュです。今後は、会長として、そのた めの研究活動の場を提供し、微力ながら日本地 域学会の発展に精一杯尽力してまいります。先 輩諸氏および会員諸賢のご理解とご協力を心 よりお願い申し上げ,会長の挨拶とさせていただきます。

Ⅱ. 役員人事等

令和 5・6 (2023・2024) 年期日本地域学会 事務局,各種委員会等の構成及び交代について しらせいたします。

1. 日本地域学会事務局

会長

松本 昭夫(中央大学名誉教授)

副会長

浅見 泰司 (東京大学)

木南 莉莉 (新潟大学)

鐘ヶ江 秀彦(立命館大学)

総務担当常任理事(事務局長)

水野谷 剛(筑波大学)

財務担当常任理事

櫻井 一宏(立正大学)

庶務担当常任理事

鈴木 聡士(北海学園大学)

理事

朝日 ちさと (東京都立大学)

石橋 健一(愛知学院大学)

内田 晋(茨城大学)(事務局次長)

大内田 康徳 (広島大学)

國光 洋二(農業・食品産業技術総合研究機構)

斎藤 参郎 (福岡大学)

佐々木 啓介(東洋大学)

篠崎 剛 (東北学院大学)

渋澤 博幸(豊橋技術科学大学)

高野 伸栄(北海道大学)

多和田 眞(名古屋大学名誉教授)

徳永 澄憲 (麗澤大学)

中山 惠子(中京大学)

野崎 謙二(高崎経済大学)

氷鉋 揚四郎 (筑波大学名誉教授) (企画担当)

福井 秀夫(政策研究大学院大学)

藤田 陽子 (琉球大学)

正岡 利朗(高松大学)

三友 仁志(早稲田大学)

柳原 光芳 (名古屋大学)

Yabar Helmut(筑波大学)

薮田 雅弘 (中央大学)

吉田 登(和歌山大学)

監事

栫井 昌邦(福岡大学)

廣野 桂子(日本大学)

名誉理事

河野 博忠 (筑波大学名誉教授)

酒井 泰弘(筑波大学名誉教授、滋賀大学名誉 教授)

臼井 功(横浜国立大学名誉教授)

原 勲 (北星学園大学名誉教授)

加賀屋 誠一(北海道大学名誉教授)

藤岡 明房(立正大学名誉教授)

三橋 博已(日本大学)

細江 守紀(九州大学名誉教授、熊本学園大学)

戸田 常一(安田女子大学)

阿部 宏史(岡山大学)

高橋 秀悦(東北学院大学名誉教授)

第 60 回(2023 年)年次大会準備委員会及び実 行委員会

委員長: 柳原 光芳(前出)

副委員長:加藤 尚史(名古屋大学)

学術委員会

委員長: 鐘ヶ江 秀彦 (前出)

副委員長:中山 惠子(前出)

副委員長: 薮田 雅弘(前出)

広報委員会

委員長: 水野谷 剛 (前出)

副委員長: 石橋 健一(前出) 副委員長: 藤田 陽子(前出) 名誉会員推薦委員会

委員長: 臼井 功(前出)

副委員長: 内田 晋(前出)

機関誌編集委員会

委員長: 浅見 泰司(前出)

副委員長: 木南 章 (前出)

副委員長: 渋澤 博幸(前出)

副委員長: 松本 昭夫(前出)

Managing Editor: 氷鉋 揚四郎 (前出)

学会賞選考委員会

委員長: 徳永 澄憲(前出)

副委員長: 水野谷 剛(前出)

学会幹事(会則第18条第6項)

(1) 事務局幹事

総務·財務·庶務担当常任理事付

小川 健(専修大学)

野崎 乃倫子(農業・食品産業技術総合研究機構)

(2) 委員会幹事

学術委員会

小川 健(前出)

名誉会員推薦委員会

野崎 乃倫子(前出)

森岡 理紀(畜産草地研究所)

機関誌編集委員会・Editorial manager 編集委員

岩見 昌邦(和光大学)

古澤 慎一 (新潟大学)

黛 陽子(文教大学)

森岡 理紀(前出)

学会賞選考委員会

野崎 乃倫子(前出)

森岡 理紀(前出)

広報委員会

池川 真里亜 (麗澤大学)

小川 健(前出)

崔 明姫 (豊橋技術科学大学)

野崎 乃倫子(前出)

黛 陽子(前出)

森岡 理紀(前出)

事務局 事務秘書

内村 初美

事務局所在地

筑波大学 生命環境系 水野谷研究室内 〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

tel/fax +81-29-853-7221

sec@jsrsai.jp

 第60回(2023年)年次大会準備委員会及び 実行委員会

委員長: 柳原 光芳(前出)

副委員長: 加藤 尚史(前出)

委員

松本 睦(名古屋大学)

Mendez Carlos(名古屋大学)

加藤 秀弥(龍谷大学)

篠崎 剛 (前出)

進藤 優子(山口県立大学)

3. 学術委員会

委員長: 鐘ヶ江 秀彦(前出)

副委員長:中山惠子(前出)

副委員長: 薮田 雅弘(前出)

委員

國光 洋二(前出)

櫻井 一宏 (前出) (規程第4条第2号)

佐々木 啓介(前出)

渋澤 博幸(前出)

鈴木 聡士 (前出) (規程第4条第2号)

多和田 眞(前出)

水野谷 剛 (前出) (規程第4条第2号)

幹事:

小川 健(前出)

4. 広報委員会

委員長: 水野谷 剛 (前出) (規程第4条第1号)

副委員長: 石橋 健一(前出) 副委員長: 藤田 陽子(前出) 委員

内田 晋(前出)

栫井 昌邦(前出)(西部)

櫻井 一宏 (前出) (規程第4条第1号)

渋澤 博幸(前出)(東部)

鈴木 聡士 (前出) (規程第4条第1号)

三友 仁志(前出)

幹事

池川 真里亜 (前出)

小川 健(前出)

野崎 乃倫子(前出)

黛 陽子(前出)

森岡 理紀(前出)

5. 名誉会員推薦委員会

委員長: 臼井 功(前出)

副委員長: 内田 晋(前出)

委員

櫻井 一宏(前出)

渋澤 博幸 (前出)

氷鉋 揚四郎 (前出)

幹事:

野崎 乃倫子(前出)

森岡 理紀 (前出)

6. 機関誌編集委員会

委員長: 浅見 泰司(前出)

副委員長: 木南 章 (前出)

渋澤 博幸(前出)

松本 昭夫(前出)

Managing Editor: 氷鉋 揚四郎 (前出)

委員

石橋 健一(前出)

栫井 昌邦(前出)

鐘ヶ江 秀彦 (前出)

木南 莉莉(前出)

酒井 泰弘 (前出)

櫻井 一宏 (前出) (規程第3条第4号)

篠崎 剛(前出)

鈴木 聡士 (前出) (規程第3条第5号)

高橋 秀悦(前出) 野崎 謙二(前出) 多和田 眞(前出) 廣野 桂子(前出) 徳永 澄徳 (前出) 福井 秀夫(前出) 野崎 謙二(前出) 細江 守紀 (前出) 廣野 桂子(前出) 水野谷 剛(前出) 福井 秀夫 (前出) 三井 栄 (前出) 水野谷 剛(前出)(規程第3条第3号) 光多 長温(都市化研究公室) 三井 栄 (岐阜大学) 柳原 光芳(前出) 三友 仁志 (前出) 吉田 登(前出) 柳原 光芳(前出)(規程第3条第6号) 吉田 登(前出) 機関誌編集委員会·Editorial manager 編集委員 顧問: 会 幹事: Peter Batey (University of Liverpool) 岩見 昌邦(前出) Tüzin Baycan (Istanbul Tech. Univ.) 古澤 慎一(前出) Kingsley Haynes (George Mason Univ.) 黛 陽子 (前出) 森岡 理紀 (前出) Geoffrey Hewings (University of Illinois) Lars Lundqvist (Royal Inst. of Tech.) Gordon Mulligan (Univ. of Arizona) 8. 学会賞選考委員会 Peter Nijkamp (Tinbergen Institute and 委員長: 徳永 澄徳(前出) 副委員長: 水野谷 剛 (前出) Adam Mickiewicz Univ.) 委員: David Plane (University of Arizona) Jacques Poot (University of Waikato) 浅見 泰司(前出) 朝日 ちさと(前出) 櫻井 一宏 (前出) 7. Editorial manager 編集委員会 編集委員長 浅見 泰司(前出) 渋澤 博幸(前出) 副委員長 木南 章(前出) 多和田 眞(前出) 渋澤 博幸(前出) 氷鉋 揚四郎 (前出) 松本 昭夫 (前出) 藤岡 明房(前出) 石橋 健一(前出) 細江 守紀 (前出) 委員 栫井 昌邦 (前出) 松本 昭夫(前出) 三友 仁志(前出) 鐘ヶ江 秀彦(前出) 木南 莉莉 (前出) 薮田 雅弘 (前出) 小林 慎太郎 (国際農林水産業研究セ 吉田 登 (前出) ンター) 幹事: 酒井 泰弘 (前出) 野崎 乃倫子(前出) 篠崎 剛(前出) 森岡 理紀(前出) 鈴木 聡士 (前出) 高橋 秀悦(前出) 9. Asia-Pacific Journal of Regional Science 多和田 眞(前出) Editor in Chief: 氷鉋 揚四郎 (前出)

徳永 澄徳(前出)

Managing Editor:

内田 晋(前出)

櫻井 一宏 (前出)

水野谷 剛 (前出)

10. Council of RSAI and Council of PRSCO

(国際地域学会及び環太平洋地域学大会機構 評議会)

RSAI Council

Councilor: 木南 莉莉 (前出)

PRSCO Council

Councilor & Executive Secretary

鈴木 聡士 (前出)

Councilor:

鐘ヶ江 秀彦 (前出)

木南 莉莉 (前出)

徳永 澄憲(前出)

11. 日本経済学会連合

評議員(日本地域学会選出)

鐘ヶ江 秀彦 (前出)

渋澤 博幸(前出)

「日本経済学会連合 英文年報」への日本地域 学会分の担当係

編集委員: 佐々木 啓介(前出) 執筆担当: 渋澤 博幸(前出)

12. 地理学会連合

担当:

櫻井 一宏(前出)

薮田 雅弘 (前出)

Ⅲ. 第 60 回日本地域学会年次大会(令和 5 年 10 月 8~9 日)のご案内

令和 5 年度(2023 年)日本地域学会第 60 回年 次大会は、名古屋大学において下記の通り開催 されます。会員諸賢におかれましては、論文報 告,特別セッションの編成等,奮ってご参加下 さい。

記

開催日: 令和 5 年 10 月 8 日(日)~9 日(月)

開催校:名古屋大学

会場: 名古屋大学東山キャンパス

464-8601 名古屋市千種区不老町

大会準備委員会:委員長 柳原光芳(名古屋大学大学院経済学研究科部·教授)

セッション:

共通論題

- a) 地域経済·地域雇用
- b) 産業集積・情報
- c) 環境評価 · 環境政策
- d) 地域環境·地球環境
- e) 国際経済政策
- f) 交通・コミュニケーション
- g) 経済分析・モデル分析
- h) 意識分析·行動分析
- i) 地方分権·地方財政·道州制
- i) 持続可能都市・地域システム
- k) 都市再生·地域再生
- 1) 沿岸域管理·海洋政策
- m) ツーリズム
- n) アジア経済

一般論題

立地,人口移動,地域経済等の地域学一般の 課題すべて

以上

論文報告・特別セッション編成の募集

論文報告と特別セッションの編成を希望される方は、下記の事項を明記し、日本地域学会事務局へe-mailで応募して下さい。応募締切は令和5年4月28日(金)です。なお申込サイトは3月下旬に公開予定です。

[論文報告] 応募の必要事項

- 1. 論文タイトル
- 2. 上記が和文の場合には、同英文訳

- 3. 著者名, 所属(複数の場合には発表者を明記)
- 4. 同上英文表記
- Abstract 和文(700 字以内)および英文
 (200words 以内)の双方を提出
- 6. 対応責任者氏名, 連絡先住所, tel, fax, e-mail アドレス等
- 7. 希望討論者 2 名 (会員に限る。必ずしも希望 通りとならないことをあらかじめご承知おき 下さい)

[特別セッション編成] 応募の必要事項

- セッションタイトルおよびセッションの意図,内容等の概要(和文 300 字以内,英文 100words 以内)
- 座長(1-2 名の会員) 氏名,所属,同英文表
 記
- 3.1 セッション当たり 3-4 編の報告を目途に各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について1名でも可。
- 4. 応募責任者氏名, 連絡先住所, tel, fax, e-mail アドレス等

論文報告等に関する問い合わせおよび応募 は次の日本地域学会事務局宛にお願いします。

筑波大学生命環境系

水野谷研究室内

日本地域学会事務局

〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1

tel, fax: 029-853-7221

メールによるお問合せ: sec@jsrsai.jp

年次大会の参加申込み

大会および懇親会の参加申込み方法は,次号のニューズレターおよび学会ホームページにて お知らせする予定です。

学会 HP: http://jsrsai.jp/ja/

Ⅳ. 総会報告

令和4年度総会が、去る令和4年10月8日 13時より、オンラインで開催されました。徳永 会長(麗澤大学教授)より挨拶、同会長を議長と して審議および報告が行われました。つづく学 会賞授与式では、水野谷剛学会賞選考委員会副 委員長からの経過報告の後、徳永会長より受賞 者に各賞が授与され、総会は無事閉会しました。 当日の次第、審議及び報告の内容は以下の通り です。

1. 議題

- 1) 新入会員・退会希望者の承認 今期新入会員個人会員 39名,退会会員個人 会員 29名について承認された。この結果,正 会員 1,043名,法人会員5団体となった。
- 2) 令和3年度の事業報告の承認 水野谷総務担当常任理事より報告があり、 承認された。
- 3) 令和3年度の収支決算の承認 櫻井財務担当常任理事より報告があった 後,大内田監事より監査が完了している旨報 告があり、承認された。
- 4) 令和5年度の事業計画の承認 水野谷総務担当常任理事より報告があり、 承認された。
- 5) 令和 4 年度の収支予算(修正案)の承認 櫻井財務担当常任理事より報告があり、承 認された。
- 6) 令和5年度の収支予算の承認 櫻井財務担当常任理事より報告があり、承 認された。
- 7) 日本地域学会会則第 12 条 2 項の改訂の承 認

臼井名誉理事より報告があり、承認された。

8) 「日本地域学会の名誉会員数の上限を定め る規定」制定の承認

臼井名誉理事より報告があり, 承認された。

- 9) 令和 5・6 年期理事候補者の承認 水野谷総務担当常任理事より理事・名誉理 事候補者案の提示があり、承認された。
- 10)第60回(2023年)年次大会の開催地,開催 校等の承認

水野谷総務担当常任理事より名古屋大学で 行うことが報告され、名古屋大学の柳原理事 より大会案概要の報告があり、承認された。

11)第61回(2024年)年次大会の開催地,開催 校等の取扱いの承認

水野谷総務担当常任理事より慣例に従い東 日本の大学と開催の交渉を行うことが提案さ れ、今後の取り扱いについては事務局に一任 することが承認された。

12) その他

(無し)

- 2. 報告事項
- 1) 『地域学研究(52 巻)』の編集 多和田機関誌編集委員長より編集経過の報 告があった。
- 2) Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS) について

氷鉋企画担当より編集経過の報告があった。

3)RSAI の動向

木南(莉) 理事より RSAI 理事会審議内容 等の報告があった。

4) PRSCO の動向

鐘ヶ江理事より 2022 年京都大会実施の報告があった。鈴木庶務担当常任理事より今後の大会予定の報告があった。

- 3. 学会賞授与式
- 1) 選考経過報告

水野谷学会賞選考副委員長より学会賞選考委員会における選考経過について説明があった。

2) 第31回学会賞授与者報告

水野谷学会賞選考副委員長より授与者の報告があり、受賞者による受賞挨拶があった。

功績賞:なし

大石泰彦賞(論文賞): 江口潜,大塚章弘, 鐘ヶ江秀彦

奨励賞:池川真里亜

著作賞:鈴木聡士,國崎稔,石川良文 学位論文賞(博士):Roni Armis

(熊田禎宣賞・修士):李明珠

R3 最優秀発表賞 (第 14 回): 横澤陸

V. 理事会報告

令和4年度日本地域学会第4回理事会(持回り) 日時:令和4年8月29日 \sim 9月2日(金)12:00 議題

1. 日本環境共生学会・環境再生保全機構主催 シンポジウムへの共催について これを承認。

令和4年度日本地域学会第5回理事会(持回9) 日時:令和4年9月7日 \sim 9月9日(金)12:00議題

1. 日本環境共生学会・環境再生保全機構主催シンポジウムへの後援について

(共催依頼からの変更)

共催依頼を後援依頼に変更を承認。

令和 4年度日本地域学会第 6回理事会(持回り) 日時:令和 4年 9月 26日 \sim 9月 29日(金)17:00議題

- 1. 新入会員・退会希望者の承認 12 名の個人会員の入会と1 名の個人会員の 退会を承認。この結果,個人会員 1,045 名,法 人会員5 団体となる。
- 2. 日本地域学会の名誉会員数の上限を定める 規程制定について

上限を30名とすることについてこれを承認。

3. 日本地域学会出版物の電子媒体の販売価格 を定める内規制定について この内規制定を承認。 令和 4 年度日本地域学会第 7 回理事会

日時:令和4年10月7日(金) 17:30-18:30

場所:オンライン(Zoom)

出席者: 朝日,石橋,内田,大内田,鐘ヶ江,木南(莉),國光,齋藤,櫻井,佐々木,鈴木,高橋,多和田,徳永,中山,野崎(謙),氷鉋,藤田,福井,正岡,松本,水野谷,柳原,藪田,吉田の各理事(ただし,浅見,渋澤,高野の各理事より委任状付託;以上理事 28 名出席);オブザーバとして,臼井名誉理事,藤岡名誉理事,大内田監事,小野年次大会実行委員長,池川,小川,内藤,篠崎,野崎(乃),黛の各幹事

議題

会に先立ち、徳永会長より挨拶があった。

1. 新入会員・退会希望者の承認 水野谷総務担当常任理事より,退会会員1名 について説明があり,退会を諒承。

この結果, 正会員 1,043 名, 法人会員 5 団体 となった。

- 令和 4 年度第 59 回年次大会の運営について
 - 1) プログラムの変更一覧 水野谷総務担当常任理事より, プログラムの変更とセッションの移動について説明 があり, これを諒承。
 - 2) 最新版プログラム 水野谷総務担当常任理事より、プログム の変更とセッションの記述の変更について

説明があり、これを諒承。

3)総会式次第

水野谷総務担当常任理事より,各議題の 進行担当者の割り振りについて説明があ り,これを諒承。

- 4) その他特になし
- 3. 令和 5・6 年期理事候補者について 水野谷総務担当常任理事より, 令和 5・6 年期 理事候補者について説明があり, これを諒承。

4. 名誉理事の推薦について

氷鉋企画担当理事より高橋秀悦現理事及び 前会長の名誉理事の推薦について説明があり, これを諒承。

- 5. 年次大会次期開催地・開催校について 名古屋大学の大会実行委員長の柳原理事よ り第60回(2023年)年次大会(開催校:名古 屋大学)準備の進捗状況,事務局体制について について説明があり,これを諒承。
- 6. 年次大会次々期開催地・開催校について 水野谷総務担当常任理事より,2024 年次大 会の開催地・開催校については,慣例に従い東 日本の大学と開催の交渉を行う旨説明があり, これを諒承。
- 7. その他

池川大会実行委員長より 59 回年次大会に おける参加費未納者についての対応方法につ いて説明があり、これを諒承。

報告事項

- 1. 『地域学研究』第 52 巻の編集 多和田機関紙編集委員長より第 52 巻第1号 及び第 2 号の掲載論文について報告があった。
- 2. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

氷鉋企画担当理事より最近の刊行状況についての報告がなされた。これまで1年間に3号の発刊を行ってきたが、来年からは1年間に4号発刊する予定。また、今後の方針および論文数・Citation数の目標についての説明があった。

3. New Frontiers in Regional Science: Asian Perspective について

氷鉋企画担当理事より発刊数が増加傾向である旨報告があった。また, 更に発刊数を増やすべく, 各理事及び会員の皆様には是非出版に挑戦をして欲しい旨の説明があった。

4. RSAI の動向

木南(莉)理事より、RSAI 理事会及び新理 事の選挙について、また 2023 年度の若手研究 者大会やサマースクールの締切及び今後の World congress 参加者募集についての報告と 説明があった。

5. PRSCO の動向

鐘ヶ江理事より、2022 京都大会の開催報告があった。また、鈴木庶務担当常任理事より今後の PRSCO 関連の大会について、 来年度のカンボジア大会の準備状況の他、2024 年は韓国、2025年はインド、2026年はオーストラリア、2027年はフィリピンが開催候補地との説明があった。

その他
特になし。

令和4年度日本地域学会第8回理事会

日時:令和4年12月18日(日)13:00-14:00

場所:オンライン(Zoom)

出席者:浅見,石橋,内田,鐘ヶ江,木南(莉),齋藤,櫻井,佐々木,渋澤,鈴木,高野,髙橋,多和田,徳永,中山,氷鉋,福井,正岡,水野谷,三友,藪田各理事(ただし,朝日,野崎(謙),藤田,柳原,吉田の各理事より委任状付託;以上理事 26 名出席);オブザーバとして,臼井名誉理事,藤岡名誉理事,三橋名誉理事,大内田監事,池川第59回(2022年)年次大会実行委員会副委員長,小川,篠崎,野崎(乃),黛の各幹事,内村秘書

議題

会に先立ち、徳永会長より挨拶があった。

1. 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より,新入会員個人 会員 3 名,退会会員個人会員 1 名について説 明があり,これを諒承。

この結果, 正会員 1,045 名, 法人会員 5 団体 となった。

2. 第 59 回 (2022 年) 年次大会報告 池川実行委員会副委員長より収支報告があ り、これを諒承。

水野谷総務担当常任理事より,大会発表数について説明があり,これを諒承。

3. 第 60 回 (2023 年) 年次大会準備状況について

篠崎幹事より準備状況について説明があり, これを諒承。

4. 第 26-27 期日本学術会議会員・連携会員の 推薦について

水野谷総務担当常任理事より説明があり、事 務局が中心となり推薦者を検討することを諒承。

5. RSAI「Hirotada Kohno Award」の推薦について

水野谷総務担当常任理事より説明後, 氷鉋企 画担当理事から詳細の追加説明があり, これを 諒承。

- 6. 『地域学研究』セット販売の推進 水野谷総務担当常任理事より説明があり、これを諒承。
- 7. 新入会員勧誘キャンペーンの推進 水野谷総務担当常任理事より説明があり、これを諒承。
- 8. その他

鐘ヶ江理事より第 60 回年次大会について の特別イベントについての質問があり、これ を検討することで諒承。

報告事項

1. 『地域学研究』第 52 巻および第 53 巻の編 集

多和田機関紙編集委員長より『地域学研究』 第52巻および第53巻の編集状況及び掲載論 文についての報告があった。また、論文投稿規 定変更と来年度の適用について説明があった。

2. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

氷鉋企画担当理事より,編集状況及び採択率, IF 取得の見込みについて説明があった。来年からは1年間に4号発刊される予定。

3. 令和 4 年度第 2 回学会賞優秀発表賞選考委員会及び第 3 回学会賞選考委員会報告 水野谷学会賞選考委員会副委員長より,第 59 回(2022年)年次大会の Earl bird セッションでの発表を対象とした優秀発表賞 10 発表の選出について報告があった。また,令和5年度の学会賞候補者の推薦を2023年4月末日締

切予定で募集するとの説明があった。

4. RSAI の動向

木南(莉)理事より、2023年の11月の北米大会について等の説明があった。

5. PRSCO の動向

鐘ヶ江理事より、今年7月に行われたミーティング内容の説明があった。今後の PRSCO 関連大会については、2023 年 6 月のカンボジア大会(対面実施)の準備が進行中との説明があった。

6. その他

特になし。

令和 5.6(2023.2024)年期 新理事会

日時:令和4年12月18日(日)14:00-14:40

場所:オンライン(zoom)

出席者:浅見,石橋,内田,大内田,鐘ヶ江,木南(莉),齋藤,櫻井,佐々木,篠崎,渋澤,鈴木,高野,多和田,徳永,中山,氷鉋,福井,正岡,松本,水野谷,三友,Yabar,藪田の各理事(ただし,朝日,野崎(謙),藤田,柳原,吉田の各理事より委任状付託;以上理事29名出席);オブザーバとして,臼井名誉理事,高橋名誉理事,藤岡名誉理事,三橋名誉理事,小川,野崎(乃),黛の各幹事,内村秘書

議長の選出

水野谷令和 3·4 年期総務担当常任理事より,議長の選出について確認があり,慣例により徳永令和 3·4 年期会長が議長に選出された。

報告重項

 令和 5・6(2023・2024)年期 理事会の構成 (報告,確認)

水野谷令和 3・4 年期総務担当常任理事より, 令和 5・6(2023・2024)年期理事及び名誉理事 の構成について報告があった。続いて,大内田, 篠崎, Yabar 新理事から自己紹介があった。

議題

1. 令和 5・6(2023・2024)年期 役員人事 氷鉋理事及び多和田理事より,令和 3・4 年期 まで3期副会長を務めた松本理事を会長に推薦 したいとの提案があり、これを諒承。 松本理事が これを受諾し、会長が選出された。

松本新会長より、副会長として浅見理事、木南(莉)理事、鐘ヶ江理事が推薦され、これを諒承。

松本新会長より,総務担当常任理事として水 野谷理事,財務担当常任理事として櫻井理事, 庶務担当常任理事として鈴木理事が指名され, これを諒承。

松本新会長より,企画担当理事として氷鉋理 事,事務局次長として内田理事が推薦され,これ を諒承。

松本新会長より,監事として栫井会員および 廣野会員が推薦され,これを諒承。

その他の委員会構成などについては事務局 に一任することが諒承された。

2. その他

鈴木理事より、カンボジアで開催される PRSCO 2023 summer institute についての詳 細な説明があった。

VI. 委員会報告

1. 優秀発表賞選考委員会

優秀発表賞選考委員会(委員長 酒井泰弘 滋賀大学名誉教授)では,第 59 回年次大会での発表を対象とした厳正な審議により,下記の会員の方々に令和4年度日本地域学会学会賞優秀発表賞を授与する事を決定しました。また優秀発表賞選考委員会での審議は継続しており,今後,今回の優秀発表賞受賞者の中から 1 名の最優秀発表賞受賞者が決定される予定です。最優秀発表賞の授与式は,本年の年次大会(名古屋大学)で執り行われる予定です。

優秀発表賞:

Jonathan Darkwah Baffoe (University of Tsukuba)

主題: Impact of Postharvest Losses of Rice on the Economy of Ghana Delmaria Delina Richards (University of Tsukuba)

主題: Harvesting Renewable Energy to Meet Jamaica's Electricity Demand by 2030: The Case for Solar Energy

Hemali Rathnayake (University of Tsukuba)

主 題 : GHG emission assessment of Mahaweli H agriculture region in Sri Lanka 横澤陸(筑波大学)

主題:インドネシア・チタルム川上流域における WQI 目標値達成のための最適環境経済政策に関する研究

天笠 (広島大学)

主題: Endogenous choice of corporate social responsibility and emission tax: How impact do green consumers have on economic welfare?

瀧川天陽 (東京理科大学)

主題:自治体のデジタル市民参画におけるプラットフォーム導入に関する調査とモデルの 提案

廣田昌史 (新潟大学)

主題:消費者の食品ロス削減の意思決定プロセスに関する分析 —新型コロナウイルス感染症の影響に着目して—

山田崇雄(和歌山大学)

主題:民間廃棄物処理施設を活用した一般廃棄物処理の事業性評価 ~新設・既設の中継施設の整備を中心として~

菊地晃平(北海学園大学大学院工学研究科)

主題: DEA による公立中学校の教育効率の評価に関する時系列分析

齊藤光佑 (新潟大学)

主題:食品ロス削減行動に対する組織学習に 関する研究 —中学生向け教育ゲームの効果に 着目して—

2. 機関誌編集委員会報告

日本地域学会 第 73 回機関誌編集委員会 日時: 令和 4 年 7 月 10 日(土) 11:00-12:00 場所:Zoom によるオンライン方式

出席者(敬称略): 多和田・浅見・石橋・内田・ 鐘ヶ江・木南(章)・木南(莉)・櫻井・渋澤・鈴 木・高橋・徳永・内藤・野崎(謙)・福井・氷鉋・ 廣野・古澤・松本・水野谷・柳原;オブザーバー として、臼井名誉理事・小川・野崎(乃)・黛・ 篠崎の各幹事

審議事項

1) 『地域学研究』第 52 巻掲載候補論文の選 考

多和田委員長より第52巻2号の発行準備 状況及びレフェリー評価にもとづく第52巻 第3号掲載論文の選考状況について説明がな された。

2) 同上機関誌印刷方針

多和田委員長より投稿状況を勘案しながら 次期の地域学研究の発刊時期を検討する旨, 説明がなされた。

3) 規程の改訂について

内田事務局次長より、『日本地域学会「地域 学研究」掲載論文等の執筆要綱を定める規程』 の改訂の提案と改定案の詳細な説明があり、 今後更に検討を進めることとなった。

4) 投稿論文の審査上の倫理について

多和田委員長から、投稿された論文の査読 について、担当編集者の査読者指名に関する 注意と役割、および査読者の査読上の注意点 についての提案がなされ、継続審議となった。

5) APJRS について

氷鉋企画担当理事から、APJRS の Scopus CiteScore や h5-index 等の各指標及び投稿数とアクセプト率、ダウンロードされた論文の状況について説明がなされた。

日本地域学会 第74回機関誌編集委員会

日時: 令和4年12月18日(土)11:00-12:00

場所:Zoom によるオンライン方式

出席者(敬称略):多和田,浅見,石橋,鐘ヶ江, 木南(章),木南(莉),櫻井,渋澤,鈴木,高橋, 徳永,氷鉋,廣野,水野谷,三友の各委員(ただ し, 栫井, 野崎(謙), 三井, 柳原, 吉田の各委員より委任状付託; 以上委員 20 名出席); オブザーバとして, 臼井名誉理事, 藤岡名誉理事, 三橋名營理事, 大内田監事, 内田事務局次長, 小川, 篠崎, 野崎(乃), 古澤, 黛の各幹事, 内村秘書審議事項

- 1) 『地域学研究』第 52 巻 2 号編集状況および 第 53 巻 1 号掲載候補論文の選考
- 2) 同上機関誌印刷方針

審議事項1及び2に関し,多和田委員長より 編集状況及び掲載論文についての説明があり, これを諒承。

3) 2022 年度年次大会報告論文の座長評価による投稿推薦について

多和田委員長より,2022 年度年次大会報告の座長評価に基づいた投稿推薦論文について説明がなされ,原案通り了承された。また,招待講演に関しての取扱いは別枠であることが付言された。

- 4) 投稿規定の規定改訂
 - ・執筆要綱を定める規程,
 - ・規定を改正する規程,
 - 超過費用細則

内田事務局次長より、『日本地域学会「地域学研究」掲載論文等の執筆要綱を定める規程』の改訂案の詳細な説明があった。引用文献及び Appendix の表記法について若干の修正を施した後、これを第53巻掲載論文からから適用することが決定された。

5) 論文査読およびその手続きに関する倫理について

多和田委員長より,論文査読,手続きに関する倫理上のガイドラインについて,第 73 回機関誌編集委員会での審議を踏まえた修正案の提示と説明がなされた。氷鉋委員及び木南(章)委員より文言の一部修正提案がなされ,次回編集委員会にて最終案を提示することとなった。

6) Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

氷鉋委員より、編集状況及び採択率、IF 取得の見込みについて説明があった。来年からは 1年間に 4 号発刊される予定。

7) その他

水野谷委員より,第53巻掲載予定論文の一つについて補足説明がされた。

VII. 会費納入のお願い

日本地域学会会員各位

日本地域学会 会長 松本 昭夫

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、早速ですが、同封致しました請求書の通り、日本地域学会令和5年度会費をご請求申し上げますので、

納入期限 令和 5 年 3 月末日 までに同封の振込用紙にてお支払いいただけま す様お願い申し上げます。

なお、預金口座引落しの手続きを令和 5 年 3 月 17 日までに完了された方には、令和 5 年 6 月 27 日に請求内容にしたがって引落しを行いますので、お早めに手続きをおとり下さる様お奨め致します。また、学生会員年会費の適用には学生証(写し)の提出が必要ですので、pdf か封書にて、学会事務局までお送りください。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが, 事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経 費節減のため上記期限までの早期納入にご協力 いただけますよう,かさねてお願い申し上げま す。

敬具

1. 令和 5 年度日本地域学会会費等(適用期間限定)

令和 5 年度(令和 5 年 4 月 1 日 - 令和 6 年 3 月 31 日)

一般会員年会費 13,000 円 学生会員年会費 8,000 円

但し、これらの会費、購読料が適用されるのは、

- a) 納入期限(令和5年3月末日)までに上記 会費を納入された日本地域学会会員の方,
- b) 令和 5 年 3 月 17 日までに預金口座引落し の手続きを完了された日本地域学会会員の方, または,
- c) 4月以降に校費(公費)から支出する事を希望し、納入期限(令和5年3月末日)までにその旨、および支払予定日を事務局に申し出た日本地域学会会員の方、に限りますのでご注意下さい。

2. 会費の期限内納入の特典

上記納入期限に遅れた場合には、会費関連の 事務処理が煩雑となることを考慮して、日本地 域学会では、

1) 一般会員年会費として 14,000 円を請求する 2) 学生会員年会費として 9,000 円を請求する という事を決定致しております。この主旨をご 理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経 費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重 ねてお願い申し上げます。

3. Web 会員

本学会機関誌『地域学研究』の電子ジャーナルを、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)により発行しております。これにより、会員の研究成果が広く世界に向けて情報発信されております。Web 会員に登録されますと、最新の論文が電子ジャーナル(本文 PDF)として閲覧可能となります。Web 会員登録を希望される方は、学会のホームページから、電子ジャーナル『地域学研究』個人購買者認証申込書(Web 個人会員)をダウンロードしていただき、ご記入の上、事務局までお申し込みください。

Web 会員価格(令和5年4月1日-令和6年3月31日)は以下のようになります。

- 1) 学会正会員である個人 (Web 個人会員 A) 年会費 2,000 円
- 2) 学会非会員である個人(Web 個人会員 B)* 年

会費 5,000 円

- 3) 本学会法人会員である団体もしくは機関 (Web 機関会員 A) 年会費 10,000 円
- 4) 本学非会法人会員である団体もしくは機関 (Web 機関会員 B)* 年会費 40,000 円
- * Web 個人会員 B と Web 機関会員 B は, 電子 ジャーナル閲覧のみのサービスとなります。
- 4. RSAI (国際地域学会) への会員登録について 平成 23 年度から RSAI (国際地域学会) への 会員登録の方法が変更になっております。従来 より日本地域学会の会員は自動的に RSAI (国際 地域学会) の会員として登録されておりました が、会員の増加に伴う国際本部事務局の負担を 軽減するため、会員情報を電子メールアドレス で管理する事になりました。したがいまして今 後は、会費を納入する事に加え、電子メールアド レスを日本地域学会事務局に登録することが必 要となります。今後も引き続き RSAI (国際地域 学会) の会員となることを希望される会員で,電 子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録 されていない方は、会費の納入に合わせて電子 メールアドレスを事務局にお知らせください。 また RSAI への電子メールアドレスの通知に同 意されない方は、日本地域学会事務局にその旨、 お知らせください。

Ⅷ.国際地域学会関連会議のお知らせ

18th PRSCO Summer Institute 2023

開催日:2023年6月13日~14日 開催地: Siem Reap, Cambodia 会場: Angkor Paradise Hotel 大会ホームページ:

https://prscocambodia.org/

Ⅸ. 学会賞候補者推薦の募集

日本地域学会では、地域科学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。今年度も日本地域学会学会賞 (第32回) 授賞選考候補者の推薦の募集を行いますので、どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞: 地域科学の進歩および学会の運営に顕 著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞: すぐれた研究論文によって地域科学の 発展に著しく寄与し、研究業績の意義や 貢献が多大である会員を表彰する。

奨励賞: 若手研究者ですぐれた研究論文を発表 した会員を表彰する。

著作賞: 地域科学の発展に著しく寄与し, その 意義や貢献が多大である著作物を表彰す る。

学位論文賞:本学会会員である博士または修士 課程修了者がその修了要件として提出し たすぐれた学位論文を表彰する。

優秀発表賞: 年次大会においてすぐれた論文発表で行った会員に優秀発表賞を授与する。 このうち最も優秀な論文発表を行った会員に最優秀発表賞を授与する。

功績賞・論文賞・奨励賞・最優秀発表賞受賞者 には賞状とメダルが、著作賞・学位論文賞・優秀 発表賞受賞者には賞状が授与されます。

第 32 回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推 薦応募要領

◇応募期限:

1) 功績賞・論文賞・奨励賞・著作賞・学位論文 賞

令和5年4月3日(月)(事務局必着)

2) 優秀発表賞

令和5年4月28日(金)(年次大会発表申し込みと同時,事務局必着)

◇応募方法: 功績賞への応募は他薦のみ, 優秀

発表賞への応募は自薦のみですが、その他への 応募は自薦、他薦を問いません。専用の応募用紙 を事務局に提出して下さい。

◇推薦資格:推薦者は、日本地域学会会員であることが必要です。

◇受賞資格等:

1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究 業績は,過去2年間(暦年) に発表したもので, その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (Studies in Regional Science)』, Papers in Regional Science of the RSAI 又はAsia-Pacific Journal of Regional Science に掲載されている 論文であることが条件です。

- 2) 奨励賞の応募については、年齢がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時 35 才未満であった事が必要です。
- 3) 著作賞の表彰対象となる著作物については、 過去 2 年以内に出版もしくは公表された研究図 書であることが条件です。
- 4) 学位論文賞については、表彰の時点において 修了後3年以内のもので、当該学位論文に関連 した学術論文を本学会の学術セッションで発表 しているか、または本学会機関誌『地域学研究』 あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載 可として受理されていることが条件となります。 なお、年齢による制限はありません。
- 5) 優秀発表賞については、以下のいずれかである必要があります。①授賞対象となる論文発表の年度末において30歳以下である会員、②授賞対象となる論文発表時において大学院に在籍する会員、③年次大会の Early-bird Session (アーリー・バードセッション) で発表する会員であり、理事会がその表彰を適当と認めた会員。更にいずれの場合も、対象となる論文の第一著者であり、かつ年次大会当日に口頭発表を行う本人である必要があります。

◇選考方法:「日本地域学会学会賞(奨励賞・論文賞・功績賞)に関する規程」,「日本地域学会著作賞に関する規程」,「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」,「日本地域学会学会賞優秀発表賞

規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次 第,受賞者には連絡します。

◇授賞式: 第60回年次大会における総会(令和 5年10月名古屋大学)にて執り行います。最 優秀発表賞については、翌年の年次大会で執り 行います。

◇応募用紙の請求: 日本地域学会事務局まで賞 の種別を明記してご請求下さい。優秀発表賞に ついては, 年次大会発表申込用紙中に応募欄が あります。

X. 会員の移動

令和3年10月10日~令和4年10月8日

新入会員

正会員 39名

青葉 暢子 天野 雄仁 池下 研一郎 井上 憲一 植杉 大 大槻 謙 奥平 幸太郎 金子 昭彦 小林 美佑 齋藤 勝宏 鈴木 笙太 須原 菜摘 戸川 椋太 高木 冬太 瀧川 天陽 中平 千彦 橋本 浩幸 信岡 洋子 橋本 隼佑 濱田 弘潤 廣部 恒忠 福本 涼平 藤野 夏海 松本 睦 村上 沙織 王 娜 高 小西 徐 維那 天笠 BE Ngoc Diep

Arafate Joao DO ROSARIO

FABELLA, Melisa Manzano

Tifani Husna SIREGAR

Chansombuth Soulivanh Yui

Rathnayakege Hemali Rathnayake

RICHARDS Delmaria Delina

ROMÃO, JOÃO Su Hlaing Tint

SUK, Jinuk

退会会員

正会員 29名

浅見 良露 荒深 美和子 上原 征彦 内田 賢悦 荻野 賢治 押谷 一 梶原 はづき 金井 司 川津 昌作 佐々 浩樹 笹谷秀光 仙波 憲一 中川 義英 長繩 海広 林 良嗣 藤井 正 三橋 浩志 山上 俊彦 山口 尚孝 米光 結衣

Andrews Chautala KUMAR Bipul Mikela Lizzie Heine Nhiakao Kongyang Roni Armis SALIM G.M. SUU Suu Phyoe Zagdragchaa OTGONBAYAR TITHIPONGTRAKUL Nontachai

会員数

個人会員 1,043 名 法人会員 5 団体

『地域学研究』バックナンバー/ 定期講読申込書

印

		_		
宛先:	〒305-8572	つくば市天王台 1-1-1	筑波大学生命環境系水野谷研究室	Tel, Fax: +81-29-853-722
日本地域的	学会事務局:	御中		

□日本地域学会機関誌の定期講読を申込ます	(8 000 円/年)。	(PRINT ISSN: 0287-6256)

□下記のとおり、日本地域学会機関誌のバックナンバーを申し込みます。

令和 年 月 日 氏名:

所属: 住所:

/21/1F4.		112//11			
Tel, Fax:		E-mail:			
記念事業セット販売					
フルセット: 『地域学会年報([1-6号]]]+『地域学研		580,000円		
セミセット: 『地域学研究(第		550,000円			
- 1 - 2 1 · 0 · 0 · 0 · 1 · 0 1 / 0 (N 1	, ., , , ,			小計	円
	『地域学会年報	·····································			1 4
1号10,300円	2号10,			3号10,300円	
4号 10,300円	5号10,			6号 10,300円	
	『地域学研究』			1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	<u> </u>
第1巻 8,000円	第2巻	8,000円		第3巻 8,000円	
第4巻 8,000円	第5巻	8,000円		第6巻 8,000円	
第7巻 8,000円	第8巻	8,000円		第9巻 8,000円	
第10巻 8,000円	第11巻			第12巻 10,000円	
第13巻 8,000円	第14巻			第15巻 10,000円	
第16巻 8,000円	第17巻			第18巻 10,000円	
第19巻 9,400円	714 - 1 2	,		= =====================================	
= -, **! *	『地域学研究』(第2	0-28巻) no.1.no.2	•		
第20巻no.1 9,000円	第20巻			第21巻no.1 10,000	円
第21巻no.2 3,500円	第22巻		1	第22巻no.2 3,500P	
第23巻no.1 10,000円	第23巻			第24巻no.1 10,000	
第24巻no.2 3,500円	第25巻			第25巻no.2 3,500円	
第26巻no.1 10,000円	第26巻	no. 2 3,500円		第27巻no.1 10,000	円
第27巻no.2 3,500円	第28巻	no. 1 10,000円		第28巻no.2 3,500円	9
	『地域学研究』(第29	巻-34巻) no.1,no.2,n	0.3		
第29巻no.1 7,000円	第29巻			第29巻no.3 7,000P	9
第30巻no.1 7,000円	第30巻			第30巻no.3 7,000円	
第31巻no.1 7,000円	第31巻	·		第31巻no.3 7,000円	
第32巻no.1 7,000円	第32巻			第32巻no.3 7,000P	
第33巻no.1 7,000円	第33巻			第33巻no.3 7,000P	
第34巻no.1 7,000円	第34巻			第34巻no.3 7,000円	
	(第35巻-)1巻4号-		月000,8		<u>.</u>
第35巻 no.1	第35巻 no. 2	第35巻		第35巻 no. 4	
第36巻 no.1	第36巻 no. 2	第36巻		第36巻 no. 4	
第37巻 no.1	第37巻 no. 2	第37巻		第37巻 no. 4	
第38巻 no. 1	第38巻 no. 2	第38巻		第38巻 no. 4	
第39巻 no. 1	第39巻 no. 2	第39巻		第39巻 no. 4	
第40巻 no. 1	第40巻 no. 2	第40巻		第40巻 no. 4	
第41巻 no.1	第41巻 no. 2	第41巻		第41巻 no. 4	
第42巻 no. 1	第42巻 no. 2	第42巻		第42巻 no. 4	
第43巻 no.1	第43巻 no. 2	第43巻		第43巻 no. 4	
第44巻 no.1	第44巻 no. 2	第44巻		第44巻 no. 4	
第45巻 no.1	第45巻 no. 2	第45巻		第45巻 no. 4	
第46巻 no.1	第46巻 no. 2	第46巻		第46巻 no. 4	
			6,000円/		I
第47巻 no. 1	第47巻 no. 2	第48巻		第48巻 no. 2	
第49巻 no. 1	第49巻 no. 2	第50巻		第50巻 no. 2	
第51巻 no.1	第51巻 no.2	第52巻	no. 1	第52巻 no.2	
L	1			L	

※第48巻以降セット販売の場合、第47巻までのセット価格+第48巻以降1巻当り30%割引価格となります

購入総額合計		刊
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

※ 申込該当箇所に○を、□にはチェックをして下さい。

機関購入の場合は、氏名、所属欄に見積り、納品、請求書宛名機関名等を記入、責任者押印をお願い致します。

日本地域学会 正会員 入会申込書

20 年 月 日

日本地域学会 会長 松本 昭夫 殿

日本地域学会 会則第5条に定める正会員として下記の通り入会を申し込みます。

								氏名:						囙
						記								
ふ	りがな							年	月	日生	歳	※男・	女	
氏 名							同英文	(last name		me)				
							同英文							
	機関名													
					(年	月より)	- II. I							
===	所 属						同英文							
所	171 /14													
属	職名						同英文							
		Ŧ					同英文							
先	所在地													
		電話:	()			fax:	(,)			
	e-mail													
		一	送希望先	※(どち	らかを○)	勤務先・自宅	同英文							
自	住 所	'												
宅		電話:	()			fax:	(()			
	e-mail				_									
学		月入学	<i>16</i> -→ \	- TPU 7 II 7)/V										
歴		月※卒業・	・修了・満	i期退字										
	年													
職	年	月												
歴	年	月												
	年	月												
	専攻:		•				学位:			(大学	主
古		Rea	ional Scien	ce Associa	ation Interna	ational (RSAI)			[数回答]	· 入会	を 内 参 昭	3)		
専門				11550010	illon interna	monar (RSIII)		RETICAL			VI 12 V			
分	I. ISSUE	ORIENTAT	TION					L ORIENT		-עני				
野														
	III. MOD	E OF ANA	LYSIS				IV. REG	ONAL FO	CUS					
所	属他学会	÷												
i		1												

以上(※は該当項目に○をする)

紹介者

(会員に限る)

事務局記入欄 入会承認 年 月 日第 回理事会 退会承認 年 月 日第 回理事会

印

MEMO